

2024/12/9（金）

本日はインタビューよろしくお願いいたします。

旅客運送会社で働いているAといいます。  
今日はよろしくお願いいたします！

社長のBです。よろしくお願いいたします。

いつものお仕事の様子を教えてください！

いつもはこのような感じでお仕事をしています。



勤務を続けて約2年半とのことですが、  
この仕事を続けられている理由は  
なんだと思いますか。

同僚との人間関係が良いことや、仕事の勤務スケジュールを一定の範囲内で自分なりに考えて組ませてもらえることが僕に会っていると感じます。元出所者で長い間この会社で働いている先輩がいて、その先輩からも、どうしたら失敗しないかを教えてもらったりしている中で、自分なりの仕事のスタイルを確立していったように思います。最初は過去に悪いことをした自分が堂々と働くななんていいのだろうかといった負い目や、白い目で見られる不安もありましたが、社長をはじめ同僚の方が「頑張れよ」といったあたたかい気持ちで受け入れてくれて、困ったことがあれば頼れる方々に恵まれたので不安は次第に消えていきました。

この会社で働くことにしたきっかけは  
なんですか？

職種にコレと言った希望もなかったので、  
受刑中に就労支援を受けて就労支援を担当する職員の方等と相談したり、面接をしたりしながら、いろんな職種を検討していましたが、結局はまずはやってみないと分からないなと思い、この仕事なら自分にもやれそうかなと何となく感じるものを選びました。

昔の自分から変わったきっかけは何なのでしょう。



僕は刑務所にいる間も何度も懲罰を受けるくらい悪かったんですが、懲罰中に面会に来たお母さんが僕に会えずに泣いていたと聞いて、このままでいいのだろうかと自分自身と向き合って深く考えるようになりました。それがきっかけの一つかなと思います。最近では、お母さんが「今がほんまに幸せ」と周りの人に言っていたらしく、とっても嬉しい気持ちになりました。あと、B社長と出会ったことで、誰かに相談したり頼れるようになったのも大きいと思います。

今後にむけて夢や目標はありますか？



まずは仕事を頑張っていきたいです。その上で、夢と言えるかは分かりませんが、息子も大きくなっていくので、地元で家を買えたらなと思っています。

B社長の経営する会社が協力雇用主に登録することになったきっかけはなんですか？




十数年前、当時のオーナー社長から協力雇用主のパンフレットを見せてもらったのがきっかけです。君なら出来るだろうと言われて「そうだな」と思いましたし、再犯率の高さや被害者の数の多さなどに衝撃を受けて目覚めた感じでした。

協力雇用主として保護観察対象者等を雇用する上で気をつけている点などありますか？




前歴をどこまでオープンにしていかが、役員や経理の人のみがいいのか、従業員全体にも知られて構わないのかなど、面接の際に個々の意向を確認しつつ本人の気持ちを尊重して対応しています。また、区別や差別を絶対にしないことは一番気をつけています。彼らは他の従業員と何ら変わりません。その上で「自律」ではなく「自立」、つまり自分の足で立ち上がってもらうためには、暗闇に追い込まれそうになった時に素直に「助けて」と言える環境が大事だと思うので、そう言いやすい環境を私の所で作りたいという思いでやっています。

仕事をしていてつらいな、  
と覚ることはありますか？




夜勤帯で勤務しているため、生活リズムが崩れて慣れるまでは体力的にきつかったです。あと、酔ったお客様から罵声を浴びせられたりすることが1日に数回続いたりすると、どうしてもしんどい気持ちになりますね。

そのしんどい気持ちは  
どうやって乗り越えていますか？




「自分は酔ってもこうはならないぞ」と反面教師にして、その場では仕事だと割り切っています。あと、自分には息子が居るのですが、仕事でお金を稼いで、休日に息子をいろんな場所に連れていった時に、今まで見たことがないような息子の笑顔を見られるのが何よりも嬉しくて、それを思うと仕事を頑張る気力が湧いてきます。

同僚の方との関係で印象に残っている  
エピソードはありますか？



僕は過去に仕事が続いた経験がなくて、仕事をすることに不安がありました。だから頑張ろうと思って、かえって仕事に一点張りになりすぎてしまって、家族をないがしろにしてしまいかけた時があったんです。そんな時に先輩が、「仕事も大事だけど、家族があつてこそその仕事って部分もあるんやで。夜勤とか大変なのを君が頑張ってるのは分かるけど、家族のための時間もつくってやらなあかんで。」と言ってくれて、はたと自分の至らなかつた部分に気付かされたことがあります。

出所後に昔の友人から悪いことに誘われる  
ようなことはなかつたでしょうか。



悪いことをしていたときの知り合いがお客様の中にいることもあり、連絡先を聞かれたりすることもありました。でも彼らと話をしていると、もう昔の繋がりや、かつてやっていたような悪いことに魅力を全く感じなくなっている自分に気がつくんです。だから、危ないなと感じたら受け流してやり過ごすようにしています。



B社長からみたAさんについて教えてください。



Aさんの昔のことをよく知っているわけではありませんが、昔の話を聞いたり写真を見たりすると、今の彼とは別人のように感じます。今はムードメーカーとして会社にとってなくてはならない大切な存在です。

協力雇用主になってよかったと思うことはありますか。




協力雇用主になって、裏切られたこともあったりしてつらかったこともたくさんあった気がしますが、あまり印象に残っていないんです。彼らが今まで出来なかったであろう幸せな日常を普通に送れていることが雇用主としてとても嬉しく感じています。私は今までいろんな人から助けってもらってきたし、それを別の形で彼らに返していきたい。でも自分がこれだけやっているんだからお前もきちんとやるべきだ、というような気持ちは絶対持つてはいけないと思っていて、あくまでもフラットな関係で真っ直ぐぶつかっていくことが大事だと思っています。その結果、雇った人から「見返りを求めない大人に初めて出会った」と言われたことがあったのですが、それが堪らなく嬉しかったですね。

Aさんから、これから立ち直りに向けて頑張ろうとする皆さんへのコメントをいただけますか？




僕が今、こうして2年以上も仕事を続けられている根本には、受刑生活中にひたすら自分と向き合ってきたことがあると思っています。過去について、なぜこうなったのかとかどうしたら良かったのかを振り返ったり、それをもとに、出所したらどう生きていこうかを真剣にもがいて考えたりしていたことが、今に繋がっていると思っています。すぐに具体的な仕事のイメージまでは持てなくても、そうやっていろいろ考える中で、心の中に自分なりの譲れない大切な何かを持つことができれば、きっと頑張れるのではないかと思います。

B社長やAさんから、協力雇用主の方や協力雇用主になろうと考えている方にむけたコメントをいただけますか？




刑務所や犯罪者などのワードからくる先入観にとらわれないでほしいと思います。構えなくても彼らは一般求人で雇用している従業員と何ら変わりませんし、対応を特別に変える必要もありません。不安を感じなくて大丈夫ですし、堂々と取り組んでほしいなと思います。




B社長がそうなのですが、適度な距離感で、踏み込みすぎないけれど、何かあったときには近くにいてくれて、頼ってもいいと思わせてくれる安心感があると働きやすくてありがたいなと感じます。

B社長から、これから立ち直りに向けて頑張ろうとする皆さんへのコメントをいただけますか？




私からのコメントはやや異端かもしれませんが、やりたい職業に就こうとか、長く働こうとかいう気持ちではなく、迷ったり困ったりしたときの頼る相談先として、家族や友達以外に協力雇用主という選択肢を加えてもらえたらいいと思います。とりあえず、私たち協力雇用主のところに居場所を求めて来てほしい。それで1年2年とやってみて、前向きに次のステップアップに繋がってもらえればいいと思っていますし、立ち上がるための一時的なきっかけ、ある種の踏み台となることも厭わない協力雇用主さんは私以外にもたくさんいらっしゃると思っています。もちろん長く勤めてもらえれば嬉しいけれど、単に働くことや出勤することが美德というのではないと思います。私たちは、拠り所・居場所を整えて待っていますので、まずは気兼ねなく頼って来てもらいたいという気持ちです。

Aさん、B社長ありがとうございました！



ありがとうございました！



ありがとうございました！